

## 成長国・新興国、GDPで先進国を逆転へ？

途上国などを含む新興国の国内総生産（GDP）の合計が、2013年にも先進国のGDPを抜くという見通しが、IMFにより発表されました。<sup>\*1</sup> 今回、物価水準を調整し為替変動を取り除いた購買力平価基準でGDPを比較したところ、先進34カ国・地域の合計と新興国150カ国の合計は2012年にほぼ肩を並べ、2013年には新興国側が上回るとの予想です。

双方の格差は、2000年代初めに約10兆米ドルもありましたが、2008年の金融危機の影響で急速に縮小しました。先進国がマイナス成長に転じる一方で、新興国はプラス成長を維持したためです。成長国<sup>\*2</sup>・新興国・先進国で同データを見ると、成長国と新興国を合わせたGDPは2011年に先進国を上回ったと推測されています。成長国の高い経済成長が逆転に大きく貢献したと考えられます。今後の世界のGDPシェアを見ても欧州不安に揺れるユーロ圏のシェアが低下する一方、成長国のシェアは引き続き大きく上昇すると予想されています。

一人当たりGDPで見ると、新興国は先進国に比べてまだ約6分の1の水準にとどまります。しかしながら、人口の多い新興国は、今後ますます消費市場として成長を続けることが予測されます。例えば多くの新興国では通信インフラが未成熟なことから、固定電話を飛び越えて携帯電話の契約数がすでに先進国を上回っています。一方で100人当りの契約台数では依然先進国よりも低い状況で、今後の普及率の伸びとともに市場の拡大が期待できます。

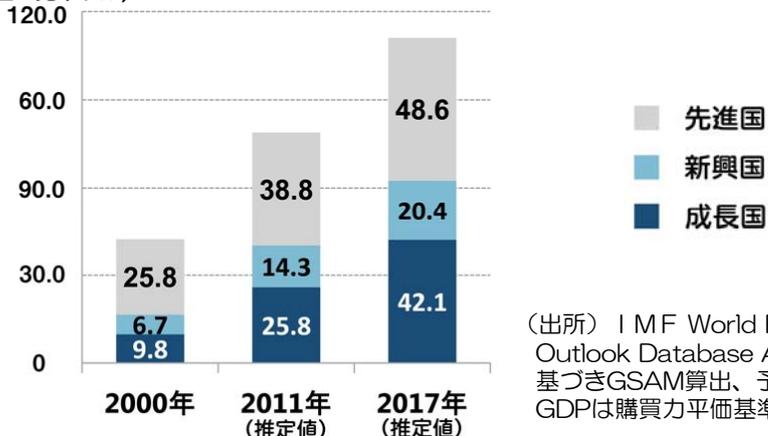
新興国の存在感は急速に増してきており、世界の経済地図は変わろうとしています。

\*1 IMFの基準によると、韓国は先進国に分類される。

\*2 「成長国」とは、ゴールドマン・サックスが提唱する今後世界経済の成長を牽引するであろう8カ国（ブラジル、ロシア、インド、中国、韓国、トルコ、メキシコ、インドネシア）を指す。

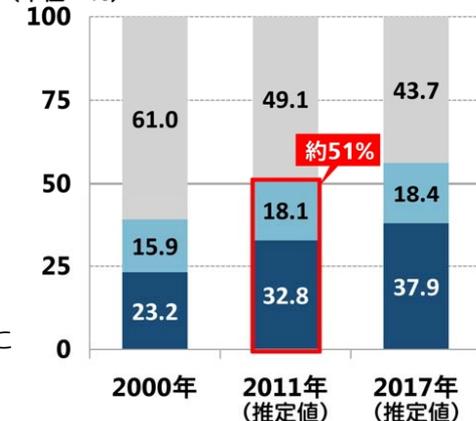
GDPの推移

(単位：兆米ドル)



世界GDPのシェア

(単位：%)



成長国について詳しくはこちらから [www.gsam.co.jp](http://www.gsam.co.jp)